

令和6年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 3 活力と魅力あふれるまちの創造

主要課題	No. 35	都市交流の促進
-------------	--------	---------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	本区との交流都市をより身近に感じてもらい、文化・観光等の様々な分野での区民レベルの活発な交流が行われ、本区の魅力を再認識し、文京区への愛着がさらに形成されている。また、区民と外国人住民等との幅広い交流が進み、国際理解が深まっている。	
計画期間の方向性	○海外都市との交流による国際理解の促進 区民の国際理解を促進するため、国際交流への関心を高めるための情報発信や異文化に触れる機会の創出及び充実を図ります。また、姉妹都市等の関係を深化させるため、交流事業を実施するとともに、新たな国際交流の可能性について、調査・研究を進めます。 ○文化・観光等の交流事業の拡充 交流自治体との住民レベルでの活発な交流が行われるよう、本区とゆかり等がある自治体と、文化・観光振興を軸とした交流事業等を継続的に実施するとともに、双方の魅力を発信します。また、オンライン等を活用した自治体間交流を検討し、有事の際に相互協力できるような強固な関係を構築していきます。	

事業費（令和5年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）		戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。							
事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
130	国際交流・海外都市交流事業	アカデミー推進課	区民と外国人住民との相互理解を深め、区民の国際理解を促進する。						20,514千円 (24,663千円)
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
	① 都市交流フェスタ来場者数	人	1,300	4,785					
	② 国際交流事業及び留学生との交流事業参加者数	人	372	1,771					
	③ 訪問団等の派遣・受入れ実施回数	回	—	2					
R5(2023)	都市交流フェスタは、シビックセンター及び礪川公園を一体とした事業へと規模を拡大し、また、国際交流事業では、トルコ写真展を開催し、参加者が大幅に増加しました（トルコ写真展参加者：1,426人）。海外都市の交流では、大韓民国ソウル特別市松坡区との職員の相互派遣を実施しました。								
131	国内交流事業	アカデミー推進課	文化・観光分野等における自治体間の交流を充実するとともに、住民レベルの交流を促進する。						6,746千円 (8,982千円)
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
	① 全国自治体と連携した交流事業実施件数	件	143	169					
	② 国内交流・連携事業補助事業実施件数	件	5	5					
	③ 国内交流自治体食材購入費補助事業実施件数	件	16	9					
R5(2023)	時代まつりin文京及び都市交流フェスタ等で自治体連携し、また、令和6年能登半島地震の復興支援事業を友好交流都市の金沢市と開催しました。								
132	文の京文化発信プロジェクト	アカデミー推進課	住民相互の交流を図り、本区の魅力の再発見やその発信につなげる。						3,436千円 (4,935千円)
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
	① 啄木学級 文の京講座参加者数	人	102	270					
	② 石見神楽参加者数	人	中止	中止					
	③ かなざわ講座参加者数	人	73	39					
R5(2023)	啄木学級文の京講座は、盛岡市友好都市協定5周年記念として著名文化人を講師に招いて開催しました。								

133	山村体験交流事業	区民課	交流事業による住民同士の交流を促進する。						5,244千円 (7,754千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 山村体験交流事業数		件	20	21				
	② 山村体験交流事業参加者数		件	444	565				
●特記事項（実績の補足）									
山村体験交流事業の参加者数は、令和4・5年度にかけ、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準に回復しました。									

2 社会ではどのような動きがあったか （社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	
世界情勢の影響によって、人的交流が制限される可能性があります。		

3 成果や課題は何か（点検・分析）	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。
-------------------	--

○海外都市との交流による国際理解の促進	
<p>トルコ大使館等とともにトルコ写真展の開催及びトルコ文化講座の新設等区民が海外文化に触れる機会を増加させました。また、区内団体及び各国大使館等を参加団体とした都市交フェスタの実施や、区内留学生団体とともにやさしい日本語を用いた留学生との交流会を開催する等、区民及び区内在住外国人の交流機会を創出し、国際理解の促進に努めました。</p> <p>姉妹都市カイザースラウテルン市と連携したホームステイ生徒交換事業については、令和5年度からホームステイの受入れを再開しました。また、交流都市ソウル特別市松坡区とは職員同士の相互交流があり、対面での交流を段階的に再開し、令和6年4月に友好都市提携に向けての覚書を取り交わしました。</p> <p>今後は、海外都市との直接的な交流事業の円滑な再開に向けて、世界情勢等を注視しながら、事業の在り方を検討するとともに、オンラインでの交流事業の併用方法を検討しながら、現在の環境下において、最も有効な交流方法を見極め、引き続き国際理解の促進を図ります。</p>	

○文化・観光等の交流事業の拡充	
<p>コロナ禍で数年間中止となっていた事業を順次再開し、コロナ禍以前と同規模での事業再開も増えています。自治体同士の交流を深めながら、住民レベルでの活発な交流につなげるよう事業のあり方を検討していきます。</p> <p>山村体験交流事業は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準に回復し、住民レベルの活発な交流が図られていますが、事業の内容によっては、参加者数に偏りがあります。</p>	

●国際交流都市等・国内交流自治体（令和6年7月現在）			●全国自治体との交流事業件数						
国外	ドイツ・カイザースラウテルン市		事業内容	R1	2	3	4	5年度	
	トルコ・イスタンブール市ベイオウル区			物産展	26	1	4	36	51
	中国・北京市通州区			自治体PR	8	26	12	11	17
	韓国・ソウル特別市松坡区			ツアー等	7	2	1	1	3
	駐日ペナン大使館			学校事業	1	1	4	5	5
国内	岩手県盛岡市	茨城県石岡市	文化事業	13	4	5	13	10	
	東京都新宿区	新潟県魚沼市	産業振興	9	11	10	12	19	
	石川県金沢市	山梨県甲州市	災害時応援	1	1	0	0	4	
	島根県津和野町	広島県福山市	その他	11	13	17	65	60	
	福岡県北九州市	熊本県							
	熊本県熊本市	熊本県玉名市							
	熊本県上天草市								
（単位：件）									
資料：アカデミー推進課 作成									

【SDGsの視点】



国内交流自治体と文化講座等事業を開催し、また、海外都市及び各国大使館等と海外文化に触れる事業等を実施し、区民が様々な文化に触れ、学ぶ機会を創出しました。
また、山村体験交流事業による様々な体験を通して、参加者の生涯学習の機会をつくります。



国内の協定締結等自治体、区内関係団体及び各国大使館等と協力し、物産展及び文化事業等を実施しました。
また、山村体験交流事業による様々な体験を通して、住民レベルの交流を図り、持続可能な社会の構築を目指す必要があります。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、次年度以降の戦略としての進め方を記しています。

国際交流については、姉妹都市等とオンラインを用いた交流を実施しながら、対面での交流を再開できるように、各都市担当者及び国内関係団体との関係を強化します。また、交流都市等に係る文化講座等を実施し、区民が国際文化に触れる機会を創出します。

国内交流については、都市交流フェスタへの出展等各種交流事業を実施し、より自治体間の関係を強固にしていきます。また、文化講座等を通じて、区民の交流自治体の魅力発信及び認知度向上を図るとともに、区民レベルでの交流促進につなげていきます。

山村体験交流事業の参加者をさらに増加させるため、令和6年度はやまびこ荘の宿泊者補助金を増額する利用促進キャンペーンに取り組みながら、参加者にとって魅力的な山村体験交流事業を実施していきます。

5 次年度、事業をどうするか（事業の見直し）

4を踏まえ、主要課題に紐づけられている個々の計画事業の次年度の検討の方向性を、「継続」「レベルアップ」「縮小」「統合・分割」「計画変更」「事業終了」で記します。

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
130	国際交流・海外都市交流事業	アカデミー推進課	継続
131	国内交流事業	アカデミー推進課	継続
132	文の京文化発信プロジェクト	アカデミー推進課	継続
133	山村体験交流事業	区民課	継続

●デジタル田園都市構想総合戦略重要業績評価指標(KPI)

指標	単位	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2027) (目標)
全国自治体との交流件数	件	169					545
	単年度実績	169					